

VOL. 3

五所川原市

魅力ある講座の実践紹介！

「ハートネットを作ろう！」

今回は、発達発育に不安のある親子を地域で支援する事業「ハートネットを作ろう！ “ちょっと気になる子” への支援事業」を展開している五所川原市中央公民館の青山由貴さん、三上裕久さんと NPO 法人「子どもネットワーク・すてっぷ」の野呂美奈子さんにお話を伺ってきました。



きっかけは…

本事業のきっかけは、学校で子供たちが授業中に座ってられない、コミュニケーションがうまくとれないなどの声が多く聞こえるようになったことです。そこで家庭での様子を知るためアンケートを実施するとともに、教育委員会で実施している調査から実態把握をしました。

すると、不登校傾向の児童数割合は増加しており、その中には、発達障害を疑われる場合があるのではないかと感じました。また、保護者の中には、就学時健康診断の時から既に対応の仕方などで困っていることも少なくなく、特に初めてのお子さんの場合、“誰に、どこに” 相談してよいのかを不安に思う保護者もいて、その一歩を踏み出せずにいる方もいらっしゃることを知ったのです。

そこで、個性豊かな子供たちを地域のネットワークで優しく見守り育てていこうと考え、実施したのが「ハートネットを作ろう！」という事業です。この事業は実行委員会を組織し、関係各課や主任児童委員、社会教育委員など幅広い方々の意見を聞きながら進めています。

具体的には下記の活動を実施しています。

- ・「ゆったり～の」…月2～3回程度、公民館の大広間を会場として、保健師や社会福祉士などが相談員となり、保護者の話を聞き、アドバイスなどをします。その間子供たちはのびのびと遊ぶ事ができます。相談事がなくても参加可能です。
- ・「子育て学習会」…発育や発達障害に関する学習会です。
- ・「交流会」…療育施設に通う子どもと通常の学級に通う子どもを一緒に遊ばせる事で、周りの配慮があればみんなと一緒に遊ぶ事ができるということを実感してもらいます。

成果と課題、そしてこれから…

一番の成果は、保護者の不安解消につながっているということです。子育て学習会終了後には受講者の個別質問を受け付けたり、場合によっては専門機関を紹介したりすることもあります。

また、これをきっかけに、保護者を支援するためのネットワークは年々広がっており、相談に来てもらえれば継続して支援する体制も徐々に強化されてきています。

課題としては、まず保護者が、子どもが困っていることにいかに早く気付く事ができるようにするか、という事があげられます。そのためには、ちょっとした気になることでも発育について気軽に相談できる場所として「ゆったり～の」をさらに周知していきたいと考えています。

また、親同士の繋がりを強化することが有効であるとも考えています。専門家に聞くだけでなく、同じような悩みを抱え、乗り越えて来た先輩ママ先輩パパ、または現在奮闘しているママ、パパ同士の繋がりを作ることで、支援の輪がより強固なものになるのではないかと考えています。

そして発達・育児に不安のある親子が、ともに集えるようになってほしいと考えています。

私たちの活動は、行政と NPO 法人とが互いの良さを生かしながら活動できています。

また、多くの方々に学びの場を提供して、もっと開かれた公民館にしていきたいと思っています。ご紹介した事業の他にも多くの地域住民にとって公民館が地域コミュニティの中心となるよう、今後ともさまざまな事業を展開していきたいと考えています。



【担当者後記】地域の多くの方に公民館を活用していただこうと、各担当課では様々な工夫をされていることと思います。紹介した取組は、地域団体との連携が効果的に働き、それぞれのニーズが満たされるとともに、地域住民のニーズも満たされているという良い例であると思います。まさに公民館運営側と NPO 法人側とが Win-Win の関係で運営している事業であり、学ぶべき点が多くありました。(A)



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》 人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、和を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。